

・・・スパイ糾弾訴訟・第1回証人尋問・・・

「革マル派の浸透」は全くデタラメであり事実無根が鮮明に！ 労働組合弾圧に加担する嶋田一味の役割が満天下に！

2月29日、東京地裁415号法廷において、「スパイ糾弾訴訟」の第1回目となる人証調べの尋問が行われました。今回の尋問では、被告人側（スパイ集団・嶋田一味）から、証人としてジャーナリストの西岡研介が証言し、さらに被告人本間雄治、阿部克幸、小林克也、嶋田邦彦の4名が証言台に立ちました。証言に立った被告らは一様に、「自分も革マル派の同盟員であった、いまも多くの同盟員がJR総連・東労組には存在している、革マル派の強い影響下にある」と口をそろえてデタラメで根拠のない証言を繰り返しました。

しかし、弁護団からの質問に対し、しどろもどろになり、汗をかきながら「知りません。知りません」「そのように聞いている」などと全く恥知らずな証言に終始しました。「自分も『同盟員』であった」と、もっともらしく証言することで、あたかも「実体験」に基づくことを立証するはずの証言はもろくも崩れ去りました。

一方、私たち原告側から、石川尚吾原告団長が証言台に立ち、嶋田一味の「スパイ」としての役割・犯罪性を堂々と訴えました。何ゆえこの裁判を提訴したのか、何ゆえ嶋田一味らを「スパイ」と規定したのかを力強く証言しました。そして、「革マル派同盟員」であるとのリストをばらまかれ、レッテルを張られたことに対する損害賠償請求の正当性を訴えると共に、公安警察の労働組合弾圧に加担し、全く事実無根の「革マル派活動家のリスト」をマスコミにばらまいたことの犯罪性を強く訴えました。

次回は、5月16日10時から原告側の主尋問です。さらに次々回は7月18日10時から原告側反対尋問の予定です。労働組合弾圧に加担する、スパイ集団・嶋田一味の反労働者性を広く世の中に訴え、一切の組織破壊攻撃を跳ね返すために奮闘しましょう。



証言を終え、報告集会で決意を述べる石川原告団長・弁護団

「JR総連・東労組内の革マル派の存在」全く立証できず！
汗を拭きふき、しどろもどろのスパイ集団・嶋田一味！

